



がんサポートフォーラム

前立腺がんにかかる人が急増し、2020年には胃がんを抜いて男性のがんの1位になると予測されている。大阪で開催された「アステラス製薬がんサポートフォーラム」では、専門医の野々村祝夫先生による前立腺がんの解説のあと、水戸黄門でうっかり八兵衛役をつとめた高橋元太郎さんが「人生楽ありや苦もあるさ」と歌いながら登場、がんとの向き合い方や考え方について講演した。



俳優・歌手
高橋元太郎氏

今から6年前、2008年に前立腺がんので全摘手術を受けました。人生には苦しいこと、つらいこともたくさんありますが、乗り越えるには何でもプラス思考でいると、つらいことに合うことも、ありがたいという感謝の気持ちが出てきます。

僕はがんになったことを今日初めてこの会場で話します。今まで話さなかったのは、あまり構えないで普通に生活したいと思ったからです。人間ですからいろいろなことを考えますけれど、どうせなら今を一生懸命、明るく楽しく生きた方がいい、そう思っています。

おふくろががんで余命宣告を受けたときは、大変にショックでした。この時は、仕事の上でも多忙を極めていたにも関わらず、それでもきちんと最期を見送ることができたのは本当に奇跡的なことでした。このときおふくろに対する、悲しみが感謝の気持ちに変わりました。

がんは早く見つけて治療すれば怖くない。だから毎年検診を受けています。僕自身、前立腺がんの3年後に胃がんが見つかりましたが、10年、20年後だったら手遅れだったかもしれない。がんといえども早く出合っただけありがたいと感謝しました。これから、もつと長生きして、今度は水戸黄門の役ができるよう感謝の気持ちで明るく生きていきたいと思っています。

2 つらくても感謝の気持ちで人生を明るく生きる

前立腺がんとの向き合い方



1 時間をかけて納得できる治療の選択を

日本泌尿器科学会 理事
大阪大学大学院医学系研究科
器官制御外科学（泌尿器科）教授
野々村祝夫 先生

前立腺がんは、尿道を取り囲む場所にある前立腺という男性特有の臓器にできるがんです。前立腺がんは男性ホルモンの影響を受けて大きくなります。

前立腺がんのリスクが高いのは①高齢者（最も頻度が高いのは60〜70歳代）②遺伝的素因のある人（三親等以内に前立腺がん経験者がいる）とリスクが3〜5倍③脂肪の多い高カロリーな食事をする人などです。

初期には自覚症状がほとんどないため、早期発見するには血液中の前立腺特異抗原を調べるPSA検査が重要です。さらに確定診断のためには、前立腺に針を刺す前立腺生検でがんの有無を調べます。

治療方法には、PSA監視療法、ホルモン療法、化学療法、手術療法、放射線療法などがあります。新しい薬が開発され、ロボット手術の普及が進んできました。重粒子線、温熱療法など保険外の治療の選択肢も増えています。それぞれにメリット、デメリットがありますので、進行具合、年齢、生活様式などをよく考えて選択することが大切です。一般的に前立腺がんは比較的進行が遅く、時間をかけて治療方法を選ぶことができます。信頼できる主治医をみつけ、必要に応じて、セカンドオピニオンを受けるなど、納得して治療に向き合いたいです。

パネルディスカッション

自分の病気・状態を正しく理解し前向きにがんに向き合う



「がんについての知識を家族と共有してほしい」と語るパネリストたち

医師や家族、周囲とのコミュニケーションが大切

町医師とのコミュニケーションに悩む人も多いようですが、高橋 分らないことは何でも主治医に聞くのが一番です。ただ、病院はいつも混んでいて、なかなか聞けない人も多いと思います。僕は「今日はこれが知りたい」ということを、一だけ頭に入れておいて聞くようにしています。

野々村 最近インターネットでも情報があふれ、かえってどうしたらよいのか、分からなくなってしまう人が多いようです。情報収集するのはよいことですが、それらに振り回されず、主治医との会話の中で正しく自分の病気のことを理解してほしいと思います。

町 家族や周囲の人たちとは、どう接したらいいのでしょうか。

高橋 僕は子どもにも孫にも明るくがんの話をしているので、家族は全然心配してくれません（笑）。でも、がんの検診は自分のためではなく家族や周囲に心配をかけることが大切です。

野々村 最近インターネットでも情報があふれ、かえってどうしたらよいのか、分からなくなってしまう人が多いようです。情報収集するのはよいことですが、それらに振り回されず、主治医との会話の中で正しく自分の病気のことを理解してほしいと思います。

町 家族や周囲の人たちとは、どう接したらいいのでしょうか。

高橋 僕は子どもにも孫にも明るくがんの話をしているので、家族は全然心配してくれません（笑）。でも、がんの検診は自分のためではなく家族や周囲に心配をかけることが大切です。

フリーアナウンサー 町 聖さん

「自分のあった納得のいく治療法を選択するために」

町 納得のいく治療法を選ぶには、どうしたらいいでしょう。

高橋 僕の場合、仕事の都合で放射線治療に通うことができませんでしたが、前立腺全摘手術を受けました。手術後に元気がなくなるのでは心配でしたが、ふだんからジムで運動していたせいか、後遺症もなく治療前と変わらない生活ができています。

野々村 確かに運動習慣がある人は術後の後遺症が少ないですね。このように手術前後の不安な点をお話したいと思いますので、当院では手術の場合、決定するまでに3回は来院していただくようにしています。つまり、患者さんのライフスタイルや価値観によって、どの治療法を選択するかは違ってきます。特に前立腺がんは一刻を争う病気ではないことが多いので、今後どのような生活を送りたいのか、じっくり時間をかけて考えることをすすめます。十分に納得して治療を受けることが大切です。